

窪尼御前御返事

弘安三年六月二十七日 五九歳

仏の御弟子の中に^{阿那律}あなりちと申せし人は、^{斛飯}こくぼん王の御子、いえに^{家宝満}たからをみてゝ
おはしき。のちに仏の御^{弟子}でしとなりては、^{てんげん}天眼第一のあなりちとて、三千大千世界を御
覧ありし人、法華経の座にては^{ふみょうによらい}普明如来とならせ給ふ。そのさきのよの事を^{前世}たづぬれ
ば、^{釋飯}ひえのはんを^{びやくしぶつ}辟支仏と申す仏の弟子にくやうせしゆへなり。いまの^{比丘尼}比丘尼は、^粟あわ
の^{早稲米}わさごめ山中にをくりて法華経にくやうしまいらせ給ふ。いかでか仏にならせ給はざ
るべき。恐々謹言。

六月二十七日

日 蓮 花 押

くぼの尼御前御返事